

選出理事候補者一覧

中部ブロック 定数 2名

(届出順、敬称略)

	氏名	勤務先
1	若井 建志	名古屋大学大学院 医学系研究科 予防医学分野
2	尾島 俊之	浜松医科大学
3	関根 道和	富山大学

所 信 表 明

1	若井 建志	名古屋大学大学院 医学系研究科 予防医学分野
<p>前回の選挙では再び代議員の皆様方の御支持を賜り、私は理事として、疫学リソース利用促進委員（リンケージ基盤推進ワーキンググループ委員長）を務めさせていただきました。私の至らなさでまとめが遅れましたが、ワーキンググループ委員の先生の御尽力により、既存公的統計・保健医療データベース、がん登録を使用した経験のある研究者への、データベース間のリンケージに関する課題のヒアリング、既存保健医療データベースでリンケージ可能な組合せについてのコメントなどをまとめた資料を作成することができました。私自身、コホート研究に関わる一研究者といたしましても、人口動態統計や疾病登録情報の研究利用には、データの継続的利用や研究者間の共有（データシェアリング）の困難さなど改善すべき点が多いと感じているところですので、当選の際には、制度改善を関係方面に働きかけることなど、引き続き疫学者が研究を進めやすい環境整備に微力を尽くしたいと考えております。日本疫学会は専門家制度の創設など益々発展しておりますが、質・量の向上のみならず、学術総会、学会誌、セミナー、若手の会、専門家制度など、会員の議論・交流の場として、多様な背景、専門性を持った会員が積極的に参加できる場にするのがこれまでもまして重要と考えています。理事会では常にこの視点から議論に参加したいと考えておりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>		

2	尾島 俊之	浜松医科大学
<p>COVID-19 の流行の中で、疫学の果たすべき役割はますます大きくなっています。一般国民にとって、さまざまな情報にとまどう状況があります。効果的なリスクコミュニケーションを推進しながら、自分の価値観を踏まえて、よりよい人生のための選択ができるように、疫学研究成果やその使い方を普及していく必要があります。臨床現場においては、利用可能な情報が増える中で創意工夫した研究を推進することが求められます。公衆衛生現場では、根拠に基づく政策形成が重視されており、現場の調査研究を支援する疫学者や、疫学の素養を持った現場担当者の育成が重要です。疫学専門家制度が創設され、その定着及び発展、セミナー等による人材育成などを進めていきたいと考えています。また、疫学事典の編集作業が進んでおり、疫学研究に関わる人のみならず、一般の方が疫学の奥深さを理解いただく本になればと考えています。さらに、第33回日本疫学会学術総会の会長を拝命し、参加されるみなさんにとって意義の大きい学術総会を開催したいと考えています。これらの活動を通じて、微力ながら疫学のより一層の充実、活性化を進めていきます。</p>		

3	関根 道和	富山大学
<p>この度、日本疫学会理事に立候補しました富山大学の関根道和と申します。私は、地方公務員を対象とした社会経済的環境と健康に関する調査（日本公務員研究）などの社会疫学を中心とした研究を行っています。疫学会においては、今期、日本疫学会広報委員会（委員長：金子聡先生）においてメディア連携WG長を務めております。役割は、マスメディアに対して疫学的考え方の普及を目指すことやマスメディアからの疫学情報の正確な発信の仕組みづくりで、ガイドラインや各種マニュアルの作成を通じたマスメディアとの連携の推進に向けて取り組んでいます。現在までに疫学会が主催する活動におけるプレスリリース要項を作成し、理事会に報告しました。今後、マスメディアとの連携のためのマニュアルの作成や会員の皆様への普及を通じて、日本疫学会とマスメディアとの連携を強め、疫学情報の正確な発信や普及に努めたいと思います。ご支援のほどよろしく申し上げます。</p>		

※勤務先の記載は立候補時の申告に基づいています。